

私立大学研究ブランディング事業 令和元年度の進捗状況

学校法人番号	131045	学校法人名	学校法人大東文化学園		
大学名	大東文化大学				
事業名	漢学・書道の学際的研究拠点の形成による「東洋人の道」研究教育の推進				
申請タイプ	タイプB	支援期間	2018	年度～	2020 年度
参画組織	文学部、経営学部、スポーツ・健康科学部、文学研究科、東洋研究所、書道研究所、大東文化歴史資料館、図書館、国際交流センター				
事業概要	現代社会が直面する人文主義の諸問題に、東洋の“道”と“書”の思想と芸術の立場から提言を試みる。建学以来、「漢学・書道の大東」として培ってきた東洋人の知的資源(漢籍・書跡)を基盤とするデジタル・アーカイブを整備・構築し、東洋人の“道”の学際的研究拠点としてのイノベーション研究を行い、全学的研究機構を設置して国内外に向けて発信することにより、「東洋人の道」を育てる大学」というブランド確立を目指す。				
①事業目的	本事業は、大東文化大学(以下、本学)の最も大きな特色の一つである「漢学・書道」を中心に展開する。その目的は、建学以来継承されてきた「漢学・書道」に関する知的資源を基盤とするデジタル・アーカイブを整備・構築し、これを学際的に発展させ、東洋人の思想、すなわち「東洋人の道」(「ヒューマニティー」)思想に係る世界的なイノベーション研究拠点となることにある。研究成果を国内外に発信し、教育へと還元することで、本学の建学の精神に謳う「儒教に基づく道義」に根差した「東洋人の道」を育てる大東文化大学」というブランドイメージの定着を目指す。				
②令和年度の実施目標及び実施計画	<p>【研究実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■前年度総点検を実施した学内の知的資源の精査(A・B・C・F) ■書道学科創設20周年・書道研究所創設50周年記念所蔵展の開催(学内及び成田山書道美術館)と記念図録の刊行(B) <p>【ブランディング実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■漢学と書道、自校史などの“道”と“書”の関連科目を「推奨科目」として開講し、在学生にブランド定着を図る(「Daito BASIS」)(～2021年度) ■多言語版特設サイト(日本語・英語・中国語)の開設 ■日本・中国・台湾の書道を通じた国際交流資源の調査及び準備 <p>【研究実施計画達成基準】(継続実施の計画は達成目標を挙げることを図る)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇知的資源の研究基盤整備のための総点検完了(A・B・C・F) ◇知的資源の研究基盤整備のための精査の実施 80%以上完了(A・B・C・F) ◇目録未完成の漢籍の目録データベース化及び写真(図版)データベース化完了(A) ◇書道学科・書道研究所の周年事業開催と記念図録の刊行完了(B) <p>【ブランディング実施計画達成基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「Daito BASIS」推奨科目指定により、漢学と書道、自校史など関連科目の履修者数が、推奨指定前と比較して10%アップ ◇多言語版特設サイト(日本語・英語・中国語)の完成 ◇書道を通じた交流資源の調査の実施及び国際交流事業の準備(アジア圏) 60%以上完了 				

<p>③令和元年度の事業成果</p>	<p>【研究事業成果】 ①書道学科・書道研究所の周年記念「大東文化大学の書－貴重書跡と現代名家(仮称)」展を開催し、その簡易カタログを作成した。 ②「論語」に見られる「道」に関する文献の収集と解釈に関する作業が完了した。また、歴代書跡に見られる「道」字作品(「道」をテーマとする作品を含む)の収集と解釈についても作業が完了した。 ③刊行物3刊(『芸文類聚』48・『茶譜』12・『大野盛雄フィールドワークの軌跡』4)を刊行した。 ④拓本に関わる知的資源の研究基盤のための総点検が完了した。 ⑤大東文化大学経営道プロジェクト委員会の活動について、学内で刊行している「経営論集」及び経営学に関わる専門誌等で報告した。また、昨年度実施した講演会の内容について学内外に公表(ホームページおよびポータルサイト)した。このことに加えて、経営と”道”に関する実証研究の概念的枠組みについて、学会報告するとともに、経営と”道”に関する資料収集、企業等へのヒアリング等も実施した。 ⑥書道動作をモーションキャプチャシステムを用いて計測するとともに、書道におけるハイパフォーマンス時の心理状態に関してアンケート調査を実施した。</p> <p>【ブランディング】 ①「Daito BASIS」推奨指定科目について、対2018年度比+79%を達成。 ②多言語版特設サイト(日本語・英語・中国語)を完成させた (https://www.daito.ac.jp/branding/news/details_28289.html) ③国立台湾芸術大学との調整に着手した。 ④2019年4月25日発行の大東文化新聞に「東洋人の道(ヒューマニティ)を育てる」を掲載。同年7月31日発行の同新聞において「道を貫く」を掲載。 ⑤多方面にわたる広報活動(本学にゆかりのある著名人との鼎談・座談会のコンテンツ制作、AERAムックの発行、公開講座における講座開講など)</p>
<p>④令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 2019年度は、前年度の準備段階を経て、知的資源のデジタルアーカイブス化への着手や多言語版特設サイト(日本語・英語・中国語)の構築をはじめとして、具体的な活動が中心になってきた。また、「Daito BASIS」推奨科目の履修者が前年比+79%となったことについては、これまでのブランディング活動が着実に成果を上げていると考えられる。今後も全学研究推進委員会を中心とした全学的なマネジメントの中で、研究事業とブランディング事業の双方が十分な成果が挙げられるよう、活動を進めてまいりたい。</p> <p>(外部評価) 研究事業に関しては、知的資源のアーカイブス化を中心に展開され、来年にはデータベースの一部公開が期待できるところである。社会的意義のある研究事業であるので、書道文化の継承と発展の一助となることを大いに期待したい。また、ブランディング事業に関しては、AERAの発刊など、大学のブランド戦略を学外に対して、分かりやすい形で公開されたことを評価したい。一方学内にあっても、「Daito BASIS」推奨科目の履修者が増えていることは大変喜ばしい。今後はこの科目を受講した学生たちが、様々な活動を通して、「Daito BASIS」で得られた知見を活かして活躍することを期待したい。</p>
<p>⑤令和元年度の補助金の使用状況</p>	<p>令和元年度の事業経費として、主に知的資源のデジタルアーカイブス化にかかる経費を計上、執行した。また、多言語版特設サイト(日本語・英語・中国語)の構築にかかる経費を執行した。</p>